



第 62 回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、戸島八千代さんにご紹介いただいたこの方は、「何を頼んでも出来ないと言わない、ものづくり職人のようなスゴイ人」とのこと。インタビュアーは大村信夫でお届けします。

【今回のスゴイ人】
黒木 利治さん



今回は、財部町のご出身で、炭焼き職人の黒木利治さんにお話を伺ってきました。

高校を卒業後、大阪にある鍍金塗装の会社に就職。忙しいながらも充実した日々を過ごしていました。ふと将来を考えた時、自分が育った地元で独立したいという思いが強くなってきたそう。両親の心配もあり鹿児島に帰ることを決断。霧島市にある鍍金塗装の会社で6年ほど働き、その後霧島市で独立開業。お客様にも愛され順調な日々を過ごしました。

12年程前、霧島市で娘さん夫婦が経営する居酒屋で、木炭の調達に難しくなると聞いた黒木さん。「どうにかしてあげたかった」と自らが炭焼き職人になることを決心。ちょうど60歳の節目だったこともあり、鍍金塗装の会社は息子さんに譲りました。

それからは、知り合いの炭焼き職人のもとで修行を重ねる日々。木材も自ら伐採します。チェーンソーを片手に傾斜地にある木を自ら切ったりするため、大変な危険

がともなうものだそうです。

「マニュアルがあるわけでもないから、経験を積んでいくしかないんです」と炭を作る際に窯から煙が出る勢いや色を見るため、木炭が出来上がるまでの約2週間、夜中でも関係なく窯の側にいたそう。

炭焼き職人として4年前に独立し、昨年の7月、生まれ育ったまちである財部町に帰って来ました。現在は後継者がいないため、そのままにされていた窯を利用して木炭作りに励んでいます。今では窯から出る煙の状態を見ると、あとどれぐらいかかるかも分かるようになったそう。

「木のサイズは毎回同じじゃない。木の置く位置によっても出来栄が変わってくるんです」と話す黒木さん。毎回、出来上がった炭の状態を見るのが楽しみだそうです。

「自然の中で自然と共に生きる。何の縛りもなく、これ以上の幸せはないんです」

今後は、怪我や病気もせずにあと15年は炭作りを続けていきたいと笑顔で話されていました。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

自然と共に生きている黒木さん。「今が最高に楽しい」と仰っていました。自分も「これ以上の幸せはないんだ」と言える人生を送れるよう励みます！（大村）



木炭の購入は

黒木 利治さん ☎ 080-5243-2803

※在庫状況によって販売できない場合もあります

協力隊の今日この頃

いよいよ地域おこし協力隊の任期が残り3カ月になりました。早いと思う反面、まだこっちに移住をしてきて3年経ってないんだと不思議な感覚です。少しでも充実した協力隊生活を送れるよう、頑張ります。

また昨年の12月から、末吉中学校にて英語教育のサポートが再開になりました。約1年ぶりの授業。あの生徒は大きくなっているかな？1年生は、どんな子達がいるんだろう？など期待に胸を膨らませながらも、覚えてくれているかな？と不安を持ちながらの再開でした。「Oh, Mr. Omura!」や「大村先生、市報で見たよ!」と声をかけて来てくれる子どもたち。心から安堵感に包まれたのは、ここだけのお話です（笑）

また最近、曾於市健康づくり駅伝に参加してきました。たった1.5km されど1.5km。走っている最中は、辛くて辛くて。まだ思い出すだけで涙が出そうになりますが、走り切った後の達成感は忘れられません。ずっと野球をやっていましたが、やっぱりスポーツっていいですね！良い思い出になりました！（大村）

